

性差については(表 S3-1、図 S3-1-1,2)、本人群、医療機関群、その他では女性が、家族、関係機関職員群では男性が多かった。

年齢区分については(表 S3-2、図 S3-2-1,2)、いずれの群も 25～44 歳が最多で、以下 45～64 歳の順であり、比率的には、本人群は 25～64 歳で 70%をしめていた。一方、家族群では 24 歳以下が 16.1%と 5 群中最も高く、医療機関群では 65 歳以上の比率が 20.1%と 5 群中最も高かった。

地域保健事業報告については(表 S3-3、図 S3-3-1,2)、いずれの群も「その他」が 50%以上をしめていた。本人群では、社会復帰が 21.4%と多く、以下、心の健康づくり 14.2%、老人保健 8.4%の順であった。家族群では、老人保健が 13.6%と多く、以下、心の健康づくり 11.6%であった。医療機関群では、心の健康づくりの相談は 1.9%と極めて少ない、関係機関職員群では、アルコールと心の健康づくりについての相談の比率が高かった。なお、「その他」では、心の健康づくりが 13.7%と多かった。

診断名については(表 S3-4、図 S3-4-1,2)、本人群では、統合失調症圏が 31.1%と最多で、以下、診断保留 23.6%、感情障害 13.9%の順であった。一方、家族群では、診断保留が 30.3%と最多で、以下、統合失調症圏 26.8%、器質性精神障害 10.8%の順であった。医療機関群では、統合失調症圏が 39.6%と最多で、以下、診断保留、器質性精神障害の順であった。関係機関職員群では統合失調症圏、診断保留、感情障害の順であった。

状態像については(表 S3-5、図 S3-5-1,2)、地域で問題になっている新たなニーズとして把握できた件数は、家族群が 376 件と最も多く、次いで、本人群が 236 件、関係機関職員群 147 件、医療機関 38 件、その他 25 件の順であった。

本人群では、うつ状態が 12.2%と多く、以下、ひきこもり、人格障害的問題の順であった。家族群では、ひきこもりが 14.6%と多く、以下、うつ状態、家庭内暴力の順であった。医療機関群ではうつ状態が 10.1%と多く、以下、家庭内暴力、人格障害的問題の順であった。関係機関職員群では、うつ状態、ひきこもり、人格障害的問題に加え、子ども虐待に関する問題が 3.0%と 5 群中最も多かった。

援助方法については(表 S3-6、図 S3-6-1,2)、本人群では、面接が 42.7%と最多で、以下、電話相談 37.1%、訪問 19.6%の順であったが、それ以外の群では、電話相談が最も多く、以下、面接、訪問の順であった。比率的には、医療機関群で電話相談は 65%強を占めていることが目立つ。

訪問先については(表 S3-7、図 S3-7-1,2)、本人群と家族群では、家庭が 6 割を占め、最も多かったが、医療機関群では医療機関が最多であった。

相談種別については(表 S3-8、図 S3-8-1,2)、総じて、治療上の問題が最多で、以下、生活上の問題、社会復帰の問題の順であったが、本人群では、社会復帰問題と生活上の問題が共に 251 件(29.7%)と最多で、次が、治療上の問題 247 件(29.2%)であった。他方、家族群、関係機関職員群、医療機関群では、治療上の問題と生活上の問題で全体の 3/4 前後を占めており、特に医療機関では、治療上の問題が半数を占めていた。

再掲では(表 S3-9-1～3-9-3、図 S3-9-1,2)、本人群では、医療利用上に問題が 208 件、日常生活上の問題が 167 件、社会復帰・施設の問題と手帳に関する問題が同数の 97 件の順であった。他方、家族群では、医療利用上の問題、家族の対応にかかる問題の順であった。また、医療機関群では医療利用上の問題が最多で、次いで、通院医療費公費負担に関する問題の順であり、関係機関職員では、医療利用上の問題、日常生活上の問題、診断に関する問題の順であった。

担当者については(表 S3-10、図 S3-10-1,2)、いずれの群でも、福祉職が 68.4～84.9%と最多で、保健師と合わせられると 90%前後を占めていた

以上をまとめると、本人群では、女性が多く、年齢的には、25～44 歳が最も多い。診断名では統合失調症圏 31.1%と多く、状態像では、うつ状態が 12.2%と多かった。相談種別では、社会復帰の問題が多く、援助方法では、面接、訪問の比率が高い。

家族群では、男性事例についての相談が多い。また、年齢的には、24 歳以下、65 歳以上

が多く、地域保健事業報告分類では、老人保健、アルコール依存症、思春期、「その他」が多い。診断的には、診断保留、脳器質性精神障害、薬剤性精神障害が多い。また、状態像では、ひきこもり、うつ状態、家庭内暴力、人格障害の問題が多かった。援助方法は、電話が最も多く、以下、面接、訪問の順で、相談種別については、治療上の問題が最も多く、次いで、生活上の問題、社会復帰の問題の順であった。

医療機関群では、女性が多く、年齢的には、25～44歳が最も多かったが、他群に比して65歳以上の比率が高かった。地域保健事業報告分類では、心の健康問題は極めて少なく、診断名では統合失調症圏が最多で、以下、診断保留、器質性精神障害の順であった。状態像では、家庭内暴力、うつ状態にかかる相談が多く、援助方法については電話相談が多かった。相談種別では治療上の問題と生活上の問題で75%近くを占めていた。

関係機関群では、男性が多かった。年齢的には25～44歳が最も多い。地域保健事業報告分類では、アルコールと心の健康についての相談の比率が高かった。診断名では、統合失調症圏が最多で、以下、診断保留群、感情障害、器質性精神障害の順であった。また、状態像では、うつ状態、ひきこもり、人格障害的問題に加え、子ども虐待に関する問題が5群中最も多かった。

3) 相談対象事例に関する指標に着目した検討

ア) 性別にみたニーズ差

性別にみたニーズについての集計結果を、表および図として整理すると、表 S4-1～10、および図 S4-1-1,2～S4-10-1,2のごとくである。

年齢区分については(表 S4-1、図 S4-1-1,2)、男女とも、25～44歳が38%台と最多で、以下45～65歳、65歳以上、24歳以下の順であった。なお、女性で65歳以上が多かった。

地域保健事業報告については(表 S4-2、図 S4-2-1,2)、男女とも、社会復帰群が最多で、以下、心の健康づくり、老人保健の順であった。男性はアルコールの問題が多く、女性は、心の健康、老人保健が多い。

診断名では(表 S4-3、図 S4-3-1,2)、男女とも、診断保留が最多で、以下、統合失調症圏、感情障害の順であった。男性では、薬剤性精神障害が多く、女性では、感情障害、神経症性神経症、人格障害が多かった。

状態像では(表 S4-4、図 S4-4-1,2)、男性では、ひきこもりが137件と最多で、以下、希死念慮を伴ううつ状態91件、家庭内暴力61件の順であった。他方、女性では、うつ状態が119件と最多で、以下、ひきこもり75件、人格障害的問題62件の順であった。なお、女性では、食生活上の問題、子ども虐待の比率が、男性よりも高かった。

相談者では(表 S4-5、図 S4-5-1,2)、男性では、家族が543件(51.2%)と最多で、以下、本人373件(35.2%)、関係機関職員222件(20.9%)、医療機関77件(7.3%)の順であったが、女性では、家族489件、本人が470件で、ほぼ同数であった。

援助方法では(表 S4-6、図 S4-6-1,2)、男女とも電話が最多で、以下、面接、訪問の順であったが、比率的には男性で、電話と面接の比率異が少なかった。

訪問先については(表 S4-7、図 S4-7-1,2)、男女とも、家庭が最多であったが、男性では、医療機関が21.6%と多かった。

相談種別については(表 S4-8、図 S4-8-1,2)、男女とも、治療上の問題が最多で、以下、生活上の問題、社会復帰上の問題の順であり、再掲も含め、実数、比率ともに性差は認めなかった。

再掲では(表 S4-9-1～4-9-3、図 S4-9-1,2)、男女とも、医療利用上に問題が最多で、以下、日常生活上の問題、診断に関する問題、社会復帰・施設の問題の順で目立った差異はなかった。

担当者についても(表 S4-10、図 S4-10-1,2)、男女とも福祉職が最も多く、次いで保健師の順であったが、女性で保健師が対応する比率が高かった。

以上より、実件数群全体では、男性1060件、女性1114件で、女性がやや多い。

男性群では、地域保健事業分類ではアルコールの問題が女性より多く、診断名では薬剤性精神障害、状態像では、ひきこもり、家庭内暴力の問題が多かった。また相談者は、家族が多く、援助法では面接の比率が多かった。

一方、女性群では、65歳以上の者の相談が多く、地域保健事業分類では、その他、心の問題、老人保健が、また、診断名では、感情障害、神経症性障害、その他、人格障害が多く、状態像では、うつ状態の他、人格障害の問題、食生活上の問題、子ども虐待などの問題の比率が男性より高かった。また、本人の利用、電話による援助の比率が高く、保健師が対応する比率が高かった。

イ) ライフステージ別(年齢区分別)にみたニーズ差

全般的には、25～44歳が4978件(46.9%)で最多であり、以下、45～64歳、3173件、65歳以上、1160件、24歳以下819件の順であった。

年代区分別にみたニーズについての集計結果を、表および図として整理すると、表 S5-1～10、および図 S5-1-1,2～S5-10-1,2のごとくである。

性差については(表 S5-1、図 S5-1-1,2)、45～64歳代群のみが、男性256名、女性242名で、男性が多かったが、他の年代区分ではいずれも女性の方が多かった。

地域保健事業報告については(表 S5-2、図 S5-2-1,2)、24歳以下群では、心の健康づくりが42件と最多で、以下、思春期37件、社会復帰29件の順であったが、比率的には、ほぼ同じであった。25～44歳群と45～64歳群では、社会復帰が最多で、次いで、心の健康づくりの順であった。65歳以上群では、老人保健が63%と最多で、以下、アルコールが10%で、社会復帰は5%未満であった。なお、65歳以上群を除き、いずれの年齢区分でも、その他が50%を超えている点が目立った。

診断名については(表 S5-4、図 S5-4-1,2)、24歳以下群では、診断保留が87件と最も多く、以下、統合失調症圏58件、その他27件、感情障害23件の順であった。25～44歳群と45～64歳では、統合失調症圏が最多で、以下、診断保留、感情障害の順であった。65歳以上群では、器質性精神障害110件と下で、以下、診断保留93件の順であった。比率配分では、65歳以上群で、器質性精神障害が多く、45～64歳群では、薬剤性精神障害、統合失調症圏、感情障害が多かった。他方、25～44歳群では神経症性障害、24歳以下群では、人格障害、精神発達遅滞の比率が高かった。

状態像では(表 S5-5、図 S5-5-1,2)、ひきこもりは、25～44歳群が103件と最多で、次いで、24歳以下が63件であった。うつ状態は、25～44歳群が62件と最多で、以下、45～64歳が71件、65歳以上33件の順であった。比率的には、24歳以下群でひきこもりは25.3%を占め、以下、家庭内暴力、うつ状態の順に多かった。25～44歳群では、ひきこもりは12.3%で、以下、うつ状態、人格障害の問題の順であった。

相談者では(表 S5-6、図 S5-6-1,2)、45～64歳群では、本人が42.6%で最多であった。それ以外の群では、家族が最も多く、次いで、本人、関係機関職員、医療機関の順であった。比率的には24歳以下と65歳以上群で家族が40～50%代を占めていた。また、25～44歳群と45～64歳群では本人が約1/3を占めていた。

援助方法では(表 S5-7、図 S5-7-1,2)、45～64歳群では面接が221件(44.4%)と最多であったが、それ以外の群では、電話が最も多く、次いで、面接、訪問、文書の順であった。比率配分では、高齢な群になるにつれ、訪問の比率は増加していた。

訪問先については(表 S5-8、図 S5-8-1,2)、いずれも家庭が最多であった。比率配分的には、高齢になるほど、家庭が多くなる傾向を認めた

相談種別については(表 S5-9、図 S5-9-1,2)、25～44歳群では、生活上の問題が291件(34.8%)と最多で、以下、治療上の問題262件(31.3%)、社会復帰の問題198件(23.7%)の順であった。それ以外の年代では、治療上の問題が、最多で、以下、生活上の問題、社会復帰の問題の順であった。比率配分については、生活上の問題は、いずれの年代でも30～40%代で大きな差はなかったが、24歳以下群と65歳以上群では、治療上の問題の比率が39.8%、47.1%と高く、社会復帰の問題は、25～64歳群で23.7%と高かった。

相談種別の再掲については(表 S5-9-1~5-9-3、図 S5-9-1,2)、各年代群とも、医療利用上の問題が最多であった。24 歳以下群では、家族等の対応の問題が、25 歳から 64 歳では日常生活上の問題、65 歳以上では、診断に関する問題が 2 番目に多かった。

担当者についても(表 S5-10、図 S5-10-1,2)、いずれの年代でも福祉職が最も多く、次いで保健師の順であったが、比率配分的には 65 歳以上群と 24 歳以下群で、保健師の対応が、また、65 歳以上群で医師の対応の比率が高かった。

以上まとめると、実件数群全体では、25~44 歳が 836 件で最多、次いで、45~64 歳、498 件、65 歳以上、314 件、24 歳以下 249 件で、不明が 288 件であった。

まず、24 歳以下群(幼少年青年期群では、女性の相談が多く、地域保健事業報告分類の「その他」、「思春期」、「心の健康問題」の比率が高い。また、診断名では、診断保留の比率が高い。状態像では、ひきこもりの問題が大きい。相談者は家族が多い。相談種別では、医療上の問題が多い。

25~44 歳群(壮年期群では、女性の相談が多く、地域保健事業報告分類の「その他」、「社会復帰問題」の比率が高く、診断名では統合失調症の比率が高い。本人からの相談の比率が高く、相談種別では、生活上の問題が最も多く、次いで、社会復帰の問題であった。

45~64 歳群(中年期群)では、男性の相談が多く、地域保健事業報告分類の「その他」、「アルコール」の比率が高く、診断名では統合失調症と薬剤性精神障害が多い。本人からの相談の比率が高い。援助方法では他群に比して面接が多かった。相談種別では、医療上の問題が多い。

65 歳以上群(後年期群)では、女性の相談が多く、地域保健事業報告分類の「老人保健の問題」が多く、診断名では脳器質性精神障害の比率が他群に比して高い。状態像では希死念慮を伴ううつ状態の比率が高く、相談者は家族が多い。相談種別では、医療上の問題が多い。また、医師の対応が他群に比して高い傾向を認めた。

ウ) 診断名別 (ICD 分類別) にみたニーズ

診断保留が 643 件と最多で、次いで統合失調症圏 608 件、感情障害 250 件、器質性精神障害 187 件、薬剤性精神障害 127 件の順であった。

診断名別にみた集計結果を、表および図として整理すると、表 S6-1~6-10、および図 S6-1-1,2~S6-10-1,2 のごとくである。

性差については(表 S6-1、図 S6-1-1,2)、男性は、薬剤性精神障害、精神発達遅滞で多く、女性は、感情障害、神経症性障害、人格障害で多かった。

年齢区分については(表 S6-2、図 S6-2-1,2)、統合失調症圏では、25~44 歳が 48.7%と最も多く、次いで 45~64 歳であった。感情障害群も、25~44 歳が 35.4%で最多であった。器質性精神障害では 65 歳以上が 58.8%と最多で、以下、45~64 歳、25~44 歳、24 歳以下の順であった。比率配分上、24 歳以下の比率が高かったのが、精神発達遅滞、人格障害で、25~44 歳の比率が高かったのが、人格障害、神経症性障害、統合失調症圏、45~64 歳の比率が高かったのが、感情障害、薬剤性精神障害、65 歳以上の比率が高かったのが、器質性精神障害であった。

地域保健事業報告については(表 S6-3、図 S6-3-1,2)、器質性精神障害群で、老人保健が多く、統合失調症圏、神経症性障害、感情障害群では社会復帰が多かった。薬剤性精神障害は、アルコール群と薬物問題であった。異常なし群と精神発達遅滞群では、思春期問題が、診断保留群では、心の健康づくりが最多であった。

状態像では(表 S6-4、図 S6-4-1,2)、診断保留群が 643 件と最多で、以下、統合失調症圏 608 件、感情障害群 250 件、器質性精神障害群 187 件、薬剤性精神障害群 127 件の順であった。診断保留群では、ひきこもりが 89 件と最多で、以下、うつ状態 74 件、家庭内暴力 26 件の順であった。感情障害群では、うつ状態が 80 件と最多で、次いで、ひきこもり 26 件であった。統合失調症圏群では、ひきこもりが 48 件と最多で、以下、家庭内暴力 17 件、うつ状態 16 件、人格障害的問題 12 件の順であった。

相談者については(表 S6-5、図 S6-5-1,2)、感情障害群と神経症性障害群では、本人が最多で、次いで家族の順であったが、それ以外は家族が最も多かった。

援助方法は(表 S6-6、図 S6-6-1,2)、精神発達遅滞群以外は、いずれも電話が最多で、以下、面接、訪問の順であった。比率配分的には、面接の比率が少なかったのは、器質性精神障害、人格障害、診断保留などであった。

訪問先については(表 S6-7、図 S6-7-1,2)、神経症性障害と精神発達遅滞以外は、家庭が最も多かった。

相談種別については(表 S6-8、図 S6-8-1,2)、治療上の問題が最多であったのは、器質性精神障害、薬剤性精神障害、その他、診断保留の各群であった。他方、統合失調症圏、と人格障害では、生活上の問題が最多であった。また、統合失調症圏群では、生活上の問題に次いで多かったのが、社会復帰問題で、以下、治療上の問題の順であった。また、比率的には、薬剤性精神障害で、治療上の問題に比率が最も高く、生活上の問題については、人格障害群が、社会復帰の問題では精神遅滞群で最も高かった。

相談種別の再掲については(表 S6-9-1~6-9-3、図 S6-9-1,2)、異常なしの群以外は、いずれの群も医療利用上の問題が最多で、次いで、日常生活上の問題、社会復帰・支援の問題の順であった。

担当者については(表 S6-10、図 S6-10-1,2)、いずれの群でも、福祉職が最多で、次の保健師と合わせると 90%前後を占めていた。

以上より、件数の多かった、統合失調症圏、感情障害、器質性精神障害、薬剤性精神障害群について、各群の特徴をまとめると、まず、統合失調症圏では、男性、25~44 歳が多かった。地域保健事業報告分類では、社会復帰が多かった。被相談者は、本人が多く、訪問先については、社会復帰・作業所が多かった。相談種別では、社会復帰の問題が多かった。

感情障害では、女性、25~44 歳が多かった。把握区分では、実数の比率が高く、状態像では、うつ状態が多い。被相談者は、本人が多く、援助方法は、面接が多かった。訪問先は、家庭が多い。また、担当者については、保健師の対応が多い。

器質性精神障害では、女性、65 歳以上が多く、地域保健事業報告分類では、老人保健事業が多かった。状態像との関連では、虐待、食生活上の問題が目立つ。相談者は、家族、医療機関、関係機関職員など多様で、援助方法は、訪問が多かった。訪問先は、家庭が多く、担当者は、医師・嘱託医、保健師が相対的に多かった。

薬剤性精神障害では、男性、25~44 歳が多かった。実数の比率が高く、状態像では、虐待が多かった。相談者は、家族、医療機関、関係機関職員が多く、援助方法は、面接が多かった。相談種別は、治療上の問題が多く、担当者は、保健師が多かった。

4) 相談内容にかかる指標

ア) 地域保健事業報告分類別にみたニーズ

実件数群全体の内訳は、「社会復帰群」325 件が最も多く、次いで、「心の健康群」280 件、「老人保健群」247 件、「アルコール群」132 件の順で、「思春期群」と「薬物群」は各々、48 件、29 件と少なかった。なお、「その他」は、1123 件と半数を占めていた。

地域保健事業報告分類別にみた集計結果を、表および図として整理すると、表 S7-1~10、および図 S7-1-1,2~S7-10-1,2 のごとくである。

性差については、(表 S7-1、図 S7-1-1,2)老人保健群、思春期群、心の健康群、および「その他」では女性が、アルコール群、薬物群では男性が多く、社会復帰群では男女差は認めなかった。

年齢区分については(表 S7-2、図 S7-2-1,2)、老人保健群では、65 歳以上群が 81.8%を占めていた。他方、社会復帰群では、25~44 歳が 52%と最多で、以下 45~64 歳、24 歳以下、65 歳以上の順であった。アルコール群、心の健康群、「その他」は、45~64 歳が、また、薬物群は 25~44 歳、思春期群は 24 歳以下がそれぞれ最多であった。

診断名については(表 S7-3、図 S7-3-1,2)、老人保健群では、器質性精神障害が 115 件(46.6%)

と最も多く、次いで診断保留、統合失調症圏の順であった。社会復帰群では統合失調症圏191件(58.8%)が、アルコール群と薬物群では薬剤性精神障害が、思春期群と心の健康群では、診断保留が多かった。また、その他では、統合失調症圏が最多で、以下、診断保留、感情障害の順であった。

状態像については(表 S7-4、図 S7-4-1,2)、老人保健群では、うつ状態が23件と最多で、社会復帰群ではひきこもり37件が、アルコール群では家庭内暴力とDVが同数で13件、うつ状態が9件認められた。一方、薬物群では、人格障害の問題と家庭内暴力が同数の4件、思春期群ではひきこもりが、心の健康群では、ひきこもり50件とうつ状態43件、その他ではうつ状態とひきこもりの問題の比率が高かった。

相談者では(表 S7-5、図 S7-5-1,2)、社会復帰群では本人が55.7%と最多で、心の健康群では、本人と家族が同数で42.9%と最も多かった。それ以外の群は、いずれも家族が最多であった。比率配分的には、家族の比率が最も高かったのが、薬物群69.0%で、次いで、思春期群68.8%、老人保健群57.1%、アルコール群54.5%の順であった。

援助方法では(表 S7-6、図 S7-6-1,2)、社会復帰群と薬物群では、面接が最多で44%台であったが、他の群は、いずれも電話が最多であった。比率配分についての相互比較では、電話の比率は、心の健康群が65.0%と最も高かった。

訪問先については、(表 S7-7、図 S7-7-1,2)いずれの群も家庭が最多であった。特に老人保健と心の健康群では80%以上をしめていた。

相談種別については(表 S7-8、図 S7-8-1,2)、社会復帰群では、社会復帰問題が165件(50.8%)と最多で、以下、生活上の問題104件32.0%、治療上の問題45件13.8%であった。また、心の健康群では、治療上の問題が39.3%と最も多く、以下、生活上の問題、心の健康問題、社会復帰問題の順であった。それ以外の群では、治療上の問題が最も多く、老人保健48.2%、アルコール50.8%、薬物55.2%、思春期62.5%であった。

相談種別の再掲については(表 S7-9-1~7-9-3、図 S7-9-1,2)、社会復帰群で、社会復帰・施設の問題が101件と多かった。

それ以外の群では医療利用上の問題と診断に関する問題とで50%前後をしめていた

担当者については(表 S7-10、図 S7-10-1,2)、アルコール、薬物、思春期群などでは、福祉職の対応が多いが、老人保健所、社会復帰、心の健康群では、保健師の対応が40%台と高率であった。また、医師・嘱託医による対応の比率は、老人保健群、心の健康群で高かった。

以上をまとめると、その他群については、家族からの相談が多く、対象事例は、女性、45~64歳の者が多かった。また、診断名では、統合失調症圏が最多で、次いで、診断保留、感情障害の順であった。状態像との関連では、うつ状態とひきこもりの問題の比率が高かった。また、相談種別では、治療上の問題が最多で、以下、生活上の問題、社会復帰問題の順であった。また、電話相談が多く、福祉職の対応が多かった。

社会復帰群については、本人からの相談が多く、対象事例は、男女差はなく、年齢区分では、25~44歳が最多で、次いで45~64歳群、24歳以下群、65歳以上群の順であった。診断名では統合失調症圏が多く、状態像ではひきこもりが多い。相談種別では、社会復帰問題が最多で、以下、生活上の問題、治療上の問題の順であり、面接相談が多かった。

心の健康群では、本人と家族からの相談がほぼ同数で、対象事例は、女性、45~64歳、診断名では診断保留が多かった。状態像では、ひきこもりとうつ状態の比率が高く、相談種別では、治療上の問題、生活上の問題が多かった。電話相談が多かったが、医師・嘱託医の対応の比率が高かった。

老人保健群では、家族からの相談が多く、事例は、女性が多く、年齢区分では、65歳以上群が80%を占めていた。診断名は、器質性精神障害が最多で、以下、診断保留、統合失調症圏の順であった。状態像ではうつ状態が多く、相談種別では、治療上の問題が最多で、電話相談が多く、保健師および医師・嘱託医の対応が多かった。

アルコール群と薬物群では、家族が多く、事例は、男性が多く、年齢区分では、前者では45~64歳群が、また後者では、25~44歳が最多であった。診断名では、薬剤性精神障害

が多く、状態像については、前者で家庭内暴力、DV及びうつ状態などの問題が、また、後者で、人格障害の問題と家庭内暴力が多かった。電話相談が多く、保健師の対応も少なくはなかった。

思春期群では、家族が多く、事例は女性、24歳以下が最多で、診断保留が多かった。状態像ではひきこもりが多く、相談種別では治療上の問題が多かった。

なお、自治体別では、アルコール群、薬物群、思春期群、その他については横浜市で多く、老人保健群は県域と県域保健福祉事務所管内市町村での相談件数が多かった。また、横須賀市では、心の健康群、社会復帰群の比率が高かった。

ウ) 新たな地域ニーズについての検討

全体では、ひきこもりが214件と最も多く、以下、希死念慮を伴ううつ状態210件、人格障害の問題90件、家庭内暴力83件の順であった。一方、食生活上の問題は34件、DVと老人虐待の件数は、各々29件、12件と少なかった。

各群別の集計結果を、表および図として整理すると、表S8-1~10、および図S8-1-1,2~S8-10-1,2のごとくである。

性差については(表S8-1、図S8-1-1,2)、男性は、ひきこもり(64.0%)、家庭内暴力(73.5%)、老人虐待(58.3%)で多く、女性は、希死念慮を伴ううつ状態(56.7%)、人格障害の問題(68.9%)、食生活上の問題(76.5%)、子ども虐待(90.9%)が多かった。

年齢区分については(表S8-2、図棒S8-2-1,2)、いずれの群でも、25~44歳が最も多かった。比率配分的には、65歳以上の比率については、うつ状態と老人虐待が多く、24歳以下の比率は、ひきこもりが多かった。また、25~44歳の比率では、子ども虐待で68.2%と最も多く、45~64歳の比率は食生活上の問題で比率が38.2%と高かった。

地域保健事業報告については(表S8-3、図S8-3-1,2)、子ども虐待、老人虐待、うつ状態、人格障害の問題、家庭内暴力などは、地域保健事業分類カテゴリーには該当しないその他と判断されている事例が72.7%、58.3%、53.3%、51.4%といずれも5割を超えていた。また、ひきこもり群およびうつ状態群では、心の健康づくりの比率が、それぞれ23.4%、20.5%と高かった。また、DV群と家庭内暴力群で、アルコール問題が、44.8%、15.7%と高比率であり、老人虐待群では、老人保健事業が25.0%と高比率であった。

診断名については(表S8-4、図S8-4-1,2)、ひきこもり群と家庭内暴力では、診断保留が41.6%、31.3%と高比率であった。他方、うつ状態群では、感情障害が38.1%、老人虐待では、統合失調症圏が66.7%と多かった。また、人格障害の問題では、人格障害が23.3%であった。

相談者については(表S8-5、図S8-5-1,2)、食生活上の問題、うつ状態では、本人が52.9%、49.0%と最多であったのに対し、ひきこもり、家庭内暴力、DV、人格障害の問題では、家族が、71.0%、74.7%、51.7%、40.0%と多く、子ども虐待と老人虐待では関係機関職員からの相談が、59.1%、66.7%と多かった。

援助方法については(表S8-6、図S8-6-1,2)、ひきこもり、人格障害的、家庭内暴力、DV、うつ状態では電話が5割を超えて最も多かったが、子どもと老人虐待では、面接が45.5%、58.3%と最も多く、食生活上の問題では電話と面接が同数であった。

訪問先については(表S8-7、図S8-7-1,2)、各群とも訪問事例が20事例未満と少なかったが、ひきこもり、うつ状態、人格障害的問題とも家庭が最多であった。

相談種別については(表S8-8、図S8-8-1,2)、ひきこもり、人格障害的問題、子ども虐待、老人虐待では、生活上の問題が、47.2%、51.1%、40.9%、50.0%と最も多かった。他方、うつ状態、家庭内暴力、DV、食生活上の問題では、治療上の問題が52.4%、57.8%、44.8%、41.2%と多かった。

相談種別の再掲については(表S8-9-1~8-9-3、図S8-9-1,2)、ひきこもりでは、日常生活上の問題が57件と最多で、以下、医療利用上の問題49件、家族の対応46件の順であった。他方、うつ状態群では、医療利用上の問題が96件と最多で、以下、日常生活上の問題39件、診断の問題37件の順であった。

担当者については(表S8-10、図S8-10-1,2)、老人虐待については保健師が最多であった。

また、子ども虐待では、保健師と福祉職の対応が同数の10件であった。それ以外の群は、いずれも、福祉職が最多であった。また嘱託医師が関わっている問題としては、人格障害的問題(10.0%)が多かった。

以上より、ひきこもりについては、家族の相談が多く、対象事例は、男性、25～44歳代、地域保健事業報告上は、その他、心の健康づくり、社会復帰に分類されているが、診断上は、診断保留と統合失調症圏が多い。また、相談内容では、生活上の問題が多かった。

うつ状態については、本人の相談が多く、女性、25～44歳代で、地域保健事業報告では、その他、心の健康づくりが多かった。診断上は、感情障害、器質性精神障害、統合失調症、診断保留がほぼ同数であった。相談内容では、治療にかかる相談が多く、保健師の対応が多い傾向を認めた。

人格障害的問題については、家族の相談が多く、女性、25～44歳代、地域保健事業報告上は、その他、心の健康づくりに分類され、診断上は、診断保留、人格障害、神経症性障害多い。また、相談内容では、生活上の問題が多かった。

家庭内暴力に関しては、家族の相談が多く、男性、24歳以下で、診断上は、診断保留、統合失調症が多かった。相談内容では、治療にかかる相談が多かった。

その他、食生活上の問題では、本人、45～64歳の女性からの相談が多かった。DVについては、アルコール依存症との関連が示唆され、治療にかかる相談が多かった。また、子ども虐待については、25～44歳代の女性からの相談に、保健師が対応していた。

ウ) 相談種別(生活のしずらさ)にみたニーズ

全体としては、治療上の問題が806件と最も多く、次いで、生活上の問題(717件)、社会復帰の問題(433件)、心の健康づくり(90件)、その他(135件)であった。

各群別の集計結果を、表および図として整理すると、表 S9-1～10、および図 S9-1-1,2～S9-10-1,2のごとくである。

性差との関連では(表 S9-1、図 S9-1-1,2)、心の健康問題群とその他の両群では、女性が63.3%、54.1%と多かったが、治療上の問題、生活上の問題、社会復帰の問題群では、男女差は認めなかった。

年齢区分との関連では(表 S9-2、図 S9-2-1,2)、いずれの群でも、25～44歳が最も多く、次いで45～64歳の順であった。比率配分的には、24歳以下の比率は、心の健康問題群で15.6%と最も多く、25～44歳の比率は、社会復帰の問題群で45.7%、また、45～64歳は、社会復帰問題群で24.5%と最も高比率であった。

地域保健事業報告との関連では(表 S9-3、図 S9-3-1,2)、心の健康問題群では、心の健康づくり事業が62.2%と最も比率が高かったが、それ以外の群は、いずれも、その他の比率が最も高かった。治療上の問題群では、老人保健事業14.8%と多かった。生活上の問題群については、社会復帰が14.5%と多く、社会復帰の問題群では、社会復帰が38.1%であった。その他では、老人保健が17.8%、次いで、心の健康15.6%であった。

診断名との関連では(表 S9-4、図 S9-4-1,2)、治療上の問題群では、診断保留が35.6%と最も多く、次いで、統合失調症圏20.8%、感情障害11.5%、器質性精神障害8.7%、薬剤性精神障害7.6%の順であった。生活上の問題群では、統合失調症圏が28.9%と最多で、以下、診断保留、感情障害、器質性精神障害の順であった。社会復帰問題群では、統合失調症圏が43.2%と最多で、次いで、診断保留、感情障害の順であった。心の健康問題群では、診断保留が最多で53.3%を占めていた。その他は、診断保留が31.1%と最も多く、次いで、統合失調症圏、器質性精神障害の順であった。

状態像との関連では(表 S9-5、図 S9-5-1,2)、治療上の問題群では、うつ状態が13.6%と最多で、以下、ひきこもり7.7%、家庭内暴力6.0%の順であった。生活上の問題群では、ひきこもりが14.1%と最も多く、次いで、うつ状態8.8%、人格障害的問題6.4%の順であった。社会復帰問題群と心の健康問題群では、共に、ひきこもりが6.0%、17.8%と最多で、以下、うつ状態の順であった。

相談者との関連では(表 S9-6、図 S96-1,2)、治療上の問題群、生活上の問題群、その他では、家族が 55.1%、49.5%、44.4%と最も多かったが、社会復帰問題群と心の健康問題群では、本人の比率が 58.0%、57.8%と最も高かった。また、関係者については、その他の比率が 23.7%と最も高かった。

援助方法については(表 S9-7、図 S97-1,2)、治療上に問題群と心の健康問題群、その他では、電話が最多で、以下、面接、訪問の順であった。一方、社会復帰問題群は、面接が 55.8%と最多で、次いで、電話が 38.8%であった。生活上の問題群では、電話 44.8%、面接 44.2%とほぼ同じ比率であった。

訪問先については、(表 S9-8、図 S9-8-1,2)、いずれも家庭が最多であった。治療上の問題では、医療機関が 20.3%と多く、社会復帰問題では社会復帰施設が 26.1%と比較的多かった。

相談種別の再掲(重複あり)では(表 S9-9-1~9-9-3、図 S9-9-1,2)、医療利用上の問題が最多で、以下、日常生活上の問題、家族の対応、診断に関する問題の順であった

担当者については(表 S9-10、図 S9-10-1,2)、いずれの群も福祉職が最多であったが、心の健康問題群、その他 群では保健師による対応が 41.1%と多かった。また嘱託医師による対応は治療上の問題で 5.6%と最もその比率が高かった。

以上より、治療上の問題については、家族からの相談が多かった。相談対象事例に性差はなく、24 歳以下と 65 歳以上の者で、診断保留の者が多く、地域保健事業報告分類では、老人保健と心の健康に関する相談が多かった。生活上の問題では、家族からの相談が多かった。相談対象事例に性差はなく、25~44 歳、統合失調症圏の者が多かった。新たな地域保健ニーズについては、ひきこもりが最多で、うつ状態、人格障害の問題の順であった。

心の健康問題では、本人の利用が多かった。相談対象事例に女性が多く、地域保健事業報告では心の健康に、診断的には診断保留のものが多く、援助方法は電話対応、保健師の対応が多かった。その他では、本人の利用が多かった。相談対象事例については、女性、24 歳以下と 65 歳以上の者が多く、診断名については器質性精神障害が多かった。

(2) 対応・援助体制にかかる検討

ア) 援助方法別にみた地域住民ニーズ

全体では、電話相談が 1106 件と最も多く、次いで、面接群 853 件、訪問 189 件で、文書は 7 件にすぎなかった。

各群別の集計結果を、表および図として整理すると、表 S10-1~9、および図 S10-1-1,2~S10-9-1,2のごとくである。電話、面接、訪問群の 3 群の所見を中心にまとめてみると、以下の如くである。

性差については(表 S10-1、図 S10-1-1,2)、電話群、訪問群では女性が多いが、面接群は男性が多かった。

年齢区分については(表 S10-2、図 S10-2-1,2)、3 群とも 25~44 歳が最も多く、次いで、45~64 歳、65 歳以上、24 歳以下の順であった。比率配分上では、面接群は 25~64 歳が多く、電話群は 65 歳以上の比率が、また、訪問群は 65 歳以上が 25.1%と多かった。

地域保健事業報告については(表 S10-3、図 S10-3-1,2)、訪問群では老人保健が 22.1%、電話相談では心の健康が 16.5%と多かった。また、各群とも、その他が 40~50%の多数を占めていた。

診断名では(表 S10-4、図 S10-4-1,2)、面接群では統合失調症圏が 266 件 31.2%、診断保留が 222 件 26%であったが、電話群では、診断保留が 393 件 35.5%と最多であった。訪問群では、統合失調症圏が 33.2%と最も多く、次いで、器質性精神障害感情障害 22.6%の順であった。

状態像については(表 S10-5、図 S10-5-1,2)、3 群とも「ひきこもり」と「うつ状態」が多く、面接群で、各々 81 件、77 件、電話群では共に同数の 109 件、訪問群で 20 件、19 件であった。

相談者では(表 S10-6、図 S10-6-1,2)、電話群と面接群では、家族が最多で、各々 43.3%、

51.1%であったが、訪問群では本人が 83.4%と多かった。

相談種別については(表 S10-7、図 S10-7-1,2)、電話群では、治療上の問題が 43.3%と最も多く、以下、生活上の問題 29%、社会復帰の問題 15.2%の順であった。面接群では、生活上の問題 37.2%と最多で、次いで、治療上の問題と社会復帰の問題は同数で 27.9%であった。訪問群では、治療上の問題と生活上の問題が、39.7%、35.7%とほぼ等しく、双方で 75%近くを占めていた。

相談種別の再掲(重複あり)では(表 S10-8、図 S10-8-1,2)、3群統合失調症圏とも、医療利用上の問題が最多であった。また、面接、訪問群では日常生活上の問題が 2番目に多かったが、電話群では診断に関する問題が 2番目であった。

担当者については(表 S10-9、図 S10-9-1,2)、電話群は福祉職の対応が 70%、保健師が 26.8%で、医師・嘱託医の対応は皆無であった。また、訪問群では、保健師は 40.2%、医師・嘱託医が 14.6%と高かった。

以上をまとめると、電話群では、家族からの相談が最多で、相談対象事例については、女性、25~44歳で、診断名では診断保留が最多であった。状態像ではひきこもりとうつ状態が多く、相談種別では治療上の問題が最も多く、福祉職の対応が 70%を占め、医師・嘱託医の対応は皆無であった。

面接群は、家族からと本人からの相談がほぼ等しく、相談対象事例については、男性、25~64歳、診断名では、統合失調症圏と診断保留がほぼ同数であった。また、相談種別では、社会復帰の問題と通院医療費公費負担の問題が同数で最も多く、対応には、保健師と医師が関与していた。

訪問群は、本人からの相談の比率が最も高かった。事例については、女性、65歳以上が相対的に多く、訪問群では、統合失調症圏が最多で、次いで、器質性精神障害感情障害が多かった。相談種別では、治療上の問題と生活上の問題がほぼ等しく、双方で 75%近くを占めていた。担当者は保健師と医師の関与が 3群中最も多かった。

イ) 担当者別にみた地域住民ニーズ

全体では、福祉職が 1560件と最も多く、次いで、保健師 609件、医師・嘱託医 77件、事務 60件、その他 57件であった。担当者別の各群につき集計整理した結果を、表および図として整理すると、表 S11-1~10、および図 S11-1-1,2~S11-10-1,2のごとくである。

性差については(表 S11-1、図 S11-1-1,2)、福祉職と事務職では男性が 50.9%、51.7%であったが、保健師と医師・嘱託医では女性が 56.7%、53.2%であった。

年齢区分については(表 S11-2、図 S11-2-1,2)、いずれの群も 25~44歳が最多であったが、保健師群と医師・嘱託医群では、65歳以上が 2番目に多く、それ以外は 45~64歳が 2番目であった。

地域保健事業報告については、福祉職群、保健師群ともに、社会復帰が最多で、それぞれ 11.9%、22.2%であった。(表 S11-3、図 S11-3-1,2)方、医師嘱託医では、老人保健が 27.3%と多かった。

診断名では(表 S11-4、図 S11-4-1,2)、福祉職群と事務職では、診断保留が最多で、それぞれ、32.3%、36.7%であったが、保健師群では統合失調症圏が 25.3%と最多であった。医師・嘱託医群では、器質性精神障害感情障害と診断保留群が同数で 20.8%と最多で、次いで統合失調症圏 18.2%、感情障害 13%の順であった。

状態像については(表 S11-5、図 S11-5-1,2)、福祉職群では、「うつ状態」が 156件と最多で、以下、「ひきこもり」124件、「家庭内暴力」73件の順であった。他方、保健師群では、「ひきこもり」80件、「うつ状態」60件の順であった。

相談者では(表 S11-6、図 S11-6-1,2)、その他を除き、各群とも家族が最多で、比率的には医師・嘱託医が 68.8%と 4群中最も高かった。

援助方法では(表 S11-7、図 S11-7-1,2)、医師・嘱託医では、面接 41件 53.2%、訪問 29件 37.7%と両方で 90%をこえていた。また、保健師の訪問援助は 80件 13.1%であった。

訪問先については(表 S11-8、図 S11-8-1,2)、医師・嘱託医と保健師では家庭訪問の比率が 86.2%、70.0%と高く、他方、福祉職は、医療機関の比率が 17.1%と他群に比して高かった。

相談種別については(表 S11-9、図 S11-9-1,2)、医師・嘱託医群で、治療上の問題についての対応比率が 58.4%と最多であった。他方、保健師群では、生活上の問題が 39.1%と高かった。福祉職群では、社会復帰上の問題への対応が 21.5%と他群に比して高かった。

相談種別の再掲(重複あり)では、医師・嘱託医で、診断に関する問題が最多であった。また、福祉職群で医療利用上の問題(表 S11-10、図 S11-10-1,2)が多く、保健師群では、日常生活上の問題や家族対応の問題などが多かった。

以上をまとめると、福祉職群の相談対象事例は、男性が多く、25~44 歳で、診断名では診断保留が最多であった。状態像ではうつ状態とひきこもりが多く、相談種別では治療上の問題が最多で、次いで、生活上の問題、社会復帰の問題の順であった。また、電話相談の比率が高く、訪問先では医療機関の比率が高かった。

保健師群では、女性、65 歳以上の比率が高く、診断名では統合失調症圏が最多であった。状態像では、うつ状態とひきこもりがほぼ同数で、相談種別では生活上の問題が多く、訪問援助の比率が高かった。

医師・嘱託医群では、女性が多く、年齢では 25~44 歳の比率が高かった。診断名では、器質性精神障害感情障害と診断保留群が多く、相談種別では治療上の問題の比率が高く、援助方法では、面接と訪問で 90%を超えていた。

事務職群は、男性、25~44 歳、日常生活上の問題、通院医療費公費負担にかかる相談の比率が高かった。

ウ) 複数相談者と単独相談者への対応の差

今回の調査 14 指標のうち、①被相談者と④担当者指標については、本年度の分析との関連で、新たに「重複の有無にかかるカテゴリーを 2 つ追加作成した。

そのうち、まず、相談者が複数か否かに注目して、複数相談者群と単独相談者群の 2 群に分けて、各群別の相談業務統計指標の集計整理を行い、両群の相談ニーズにつき検討をした。各群別に集計整理した結果を、表および図として整理すると、表 S12-1~11、および図 S12-1-1,2~S12-11-1,2 のごとくである。

性差については(表 S12-1、図 S12-1-1,2)、複数相談者群では、男性事例についての相談が 51.6%であったのに対し、単独相談者群では女性事例についての相談が 50.5%であった。

年齢区分については(表 S12-2、図 S12-2-1,2)、65 歳以上の比率は、単独相談者群の 10.6%に対し、複数相談者群では 12.6%と多かった。

地域保健事業分類別では(表 S12-3、図 S12-3-1,2)、複数相談者群で社会復帰の比率が、単独相談者群で心の健康の比率がやや高かったが、両群間に大きな差異は認めなかった。把握区分では(表 S12-4、図 S12-4-1,2)、複数相談者群で年度新と再利用の比率が高く、単独相談者群で把握新の比率が高かった。

診断名については、(表 S12-5、図 S12-5-1,2)複数相談者群で統合失調症圏、器質性精神障害、薬剤性精神障害の比率が高く、単独相談者群で診断保留の比率が高かった。

状態像については(表 S12-6、図 S12-6-1,2)、複数相談者群で家庭内暴力とうつ状態の比率が高く、単独相談者群で人格障害的問題の比率が高かった。

援助方法では(表 S12-7、図 S12-7-1,2)、複数相談者群では、訪問が 669 件 39%と最多で、以下、面接 542 件 31.6%、電話 448 件 26.1%の順であった。他方、単独相談者群では、電話が 5542 件 61.4%と最多であった。

訪問先については(表 S12-8、図 S12-8-1,2)、複数相談者群では、医療機関が、単独相談者群の 9.7%に対し、20.3%と多かった。他方、単独相談者群では、家庭が、複数相談者群の 56.2%に対し 61.7%と多かった。

相談種別については(表 S12-9、図 S12-9-1,2 は、重複相談群では、生活上の問題が最多で 34.5%、以下、社会復帰の問題 30.6%、治療上の問題 29.7%の順で、この 3 者で 95%を占め

ていた。一方、単独相談者群では、複数相談者群に比して、生活上の問題と心の健康問題が39.7%、5.6%と高かった。

相談種別の再掲（重複あり）では(表 S12-10、図 S12-10-1,2)、複数相談者群で、医療利用上の問題が最も多く、以下、日常生活上の問題、社会復帰・施設の問題の順であった。他方、単独相談者群では、日常生活上の問題が最多で、以下、医療利用上の問題、社会復帰・施設の問題の順であった。

担当者については(表 S12-11、図 S12-11-1,2)、複数相談者群で医師・嘱託医、福祉職、事務職の比率が高く、単独相談者群では保健師の比率が高かった。

以上をまとめると、複数相談者群では、男性、65歳以上、診断名では、統合失調症圏が多かった。また、相談種別では、生活上の問題が多く、状態像では、うつ状態と家庭内暴力の比率が高く、地域保健事業報告では、社会復帰が多かった。把握区分では、単独相談者に比して、再利用者が多く、援助方法では、訪問、面接が多く、訪問先は家庭、医療機関の比率が多かった。

エ) 複数担当対応事例と単独担当対応事例の差異についての検討

次に、担当者が複数か否かに注目して、複数担当群と単独担当群の2群に分けて、各群別の相談業務統計指標の集計整理を行い、両群の相談ニーズにつき検討をした。両群別に集計整理した結果を、表および図として整理すると、表 S13-1～11、および図 S13-1-1,2～S13-11-1,2のごとくである。

性差については(表 S13-1、図 S13-1-1,2)、複数担当群では、女性が55.2%と多く、単独担当群では男性が50.1%であった。

年齢区分については(表 S13-2、図 S13-2-1,2)、両群とも、25～44歳が最も多く、次いで、45～64歳、65歳以上、24歳以下の順であった。また、比率配分的には、複数担当群では、24歳以下と65歳以上が、単独担当群に比して多かった。

地域保健事業分類別については(表 S13-3、図 S13-3-1,2)、両群とも、社会復帰、老人保健、心の健康の順であった。また、複数担当群で、老人保健、アルコール、思春期、心の健康の比率が、単独担当群に比して多かった。

把握区分では(表 S13-4、図 S13-4-1,2)、複数担当群で、把握新と年度新の比率が高く、逆に、単独担当群で、再利用の比率が高かった。

診断名については(表 S13-5、図 S13-5-1,2)、両群とも統合失調症圏が最多で、以下、診断保留、感情障害、器質性精神障害、薬剤性精神障害の順であった。また、比率配分的には、複数担当群で、器質性精神障害、薬剤性精神障害、人格障害、精神発達遅滞、診断保留の比率が高く、単独担当群では、統合失調症圏、感情障害の比率が高かった。

状態像については(表 S13-6、図 S13-6-1,2)、複数担当群では、ひきこもりの比率が高く、単独担当群では人格障害の問題とうつ状態の比率が多かった。

相談者では(表 S13-7、図 S13-7-1,2)、両群とも本人が最多で、次いで、家族、関係機関、医療機関の順であった。比率配分的には、複数担当群では、家族と関係機関からの相談が多く、単独対応群では本人の比率が高かった。

援助方法では(表 S13-8、図 S13-8-1,2)、複数担当群で、面接が50.2%と最多で、以下、訪問25.6%、電話23.1%の順で、面接と訪問で75%をしめていた。他方、単独担当群では、電話が58.5%と最多で、以下、面接28.3%、訪問11.4%の順であった。

訪問先については、(表 S13-9、図 S13-9-1,2)ともに家庭が最多であったが、比率配分的には、複数担当群では、家庭の比率が高く、単独担当群で、社会復帰施設と医療機関の比率が高かった。

相談種別については(表 S13-10、図 S13-10-1,2)、両群とも、生活上の問題が最も多く、次いで、治療上の問題、社会復帰の問題の順であった。比率配分上の比較では、複数担当群で治療上の問題、生活上の問題の比率が34.3%、44.5%と高く、単独担当群で社会復帰の問題、心の健康の比率が26.2%、5%と高かった。

相談種別の再掲（重複あり）では(表 S13-11、図 S13-11-1,2)、両群とも、生活上の問題が最多で、以下、医療利用上の問題、社会復帰・施設の問題、家族の対応の順であった。また比率配分的には複数担当者群で、診断の問題、家族の対応にかかる問題の比率が高く、単独担当者群では日常生活上の問題、社会復帰・施設の問題、手帳の相談の比率が高かった。

以上をまとめると、複数の担当者で対応することは、家族、関係機関からの相談が多くかった。相談事例については、女性、65歳以上で、診断的には、器質性精神障害、薬剤性精神障害、精神発達障害、診断保留が多く、また、状態像では、ひきこもり、DVが多い傾向を認めた。地域保健事業では、老人保健、アルコール、心の健康づくりに属する者が多い。援助方法では、面接と訪問対応が多く、訪問先については、家庭が多く、相談種別では、生活の問題、治療上の問題が多かった。また具体的な相談内容については、診断上の問題、家族等の対応、経済的問題、住居の問題、ホームヘルプの問題が相対的に多い傾向を認めた。

(3)その他の指標に着目した検討

ア)自治体の形態別にみた相談ニーズ差(6区分)

図 S14-1-1,2～S14-11-1,2のみ提示。表 2-1～2-11 : p18。説明文 : p4

表3 集計図表一覧

表番号	表タイトル	備考	図番号	図タイトル	図番号	図タイトル
実件数と延べ件数						
表S1-1	実・延べ件数別にみた性差	既出:参照表	図S1-1-1	折れ線グラフ	図S1-1-2	棒グラフ
表S1-2	実・延べ件数別にみた年齢分布	本文表1-1	図S1-2-1	実・延べ件数別にみた性差	図S1-2-2	実・延べ件数別にみた年齢分布
表S1-3	実・延べ件数別にみた地域保健事業	本文表1-2	図S1-3-1	実・延べ件数別にみた年齢分布	図S1-3-2	実・延べ件数別にみた地域保健事業
表S1-4	実・延べ件数別にみた診断名	本文表1-3	図S1-4-1	実・延べ件数別にみた地域保健事業	図S1-4-2	実・延べ件数別にみた診断名
表S1-5	実・延べ件数別にみた状態像	本文表1-4	図S1-5-1	実・延べ件数別にみた診断名	図S1-5-2	実・延べ件数別にみた状態像
表S1-6	実・延べ件数別にみた相談者	本文表1-5	図S1-6-1	実・延べ件数別にみた状態像	図S1-6-2	実・延べ件数別にみた相談者
表S1-7	実・延べ件数別にみた援助方法	本文表1-6	図S1-7-1	実・延べ件数別にみた相談者	図S1-7-2	実・延べ件数別にみた援助方法
表S1-8	実・延べ件数別にみた訪問先	本文表1-7	図S1-8-1	実・延べ件数別にみた援助方法	図S1-8-2	実・延べ件数別にみた訪問先
表S1-9	実・延べ件数別にみた相談種別	本文表1-8	図S1-9-1	実・延べ件数別にみた訪問先	図S1-9-2	実・延べ件数別にみた相談種別
表S1-10-1	実・延べ件数別にみた治療上の問題内訳	本文表1-9	図S1-10-1	実・延べ件数別にみた相談種別	図S1-10-2	実・延べ件数別にみた治療・生活・社会復帰の問題内訳
表S1-10-2	実・延べ件数別にみた生活上の問題内訳	本文表1-10	図S1-10-2	実・延べ件数別にみた治療・生活・社会復帰の問題内訳	図S1-10-2	実・延べ件数別にみた治療・生活・社会復帰の問題内訳
表S1-10-3	実・延べ件数別にみた社会復帰の問題内訳	本文表1-10-2	図S1-10-3	実・延べ件数別にみた訪問先	図S1-10-2	実・延べ件数別にみた相談種別
表S11	実・延べ件数別にみた担当者	本文表1-11	図S1-11-1	実・延べ件数別にみた相談種別	図S1-11-2	実・延べ件数別にみた担当者
把握区分別にみた地域住民ニーズ						
表S2-1	把握区分別にみた性差		図S2-1-1	折れ線グラフ	図S2-1-2	棒グラフ
表S2-2	把握区分別にみた年齢分布		図S2-2-1	把握区分別にみた性差	図S2-2-2	把握区分別にみた年齢分布
表S2-3	把握区分別にみた地域保健事業		図S2-3-1	把握区分別にみた年齢分布	図S2-3-2	把握区分別にみた地域保健事業
表S2-4	把握区分別にみた診断名		図S2-4-1	把握区分別にみた地域保健事業	図S2-4-2	把握区分別にみた診断名
表S2-5	把握区分別にみた状態像		図S2-5-1	把握区分別にみた診断名	図S2-5-2	把握区分別にみた状態像
表S2-6	把握区分別にみた相談者		図S2-6-1	把握区分別にみた状態像	図S2-6-2	把握区分別にみた相談者
表S2-7	把握区分別にみた援助方法		図S2-7-1	把握区分別にみた相談者	図S2-7-2	把握区分別にみた援助方法
表S2-8	把握区分別にみた訪問先		図S2-8-1	把握区分別にみた援助方法	図S2-8-2	把握区分別にみた訪問先
表S2-9	把握区分別にみた相談種別		図S2-9-1	把握区分別にみた訪問先	図S2-9-2	把握区分別にみた相談種別
表S2-10-1	把握区分別にみた治療上の問題内訳		図S2-10-1	把握区分別にみた相談種別	図S2-10-2	把握区分別にみた治療・生活・社会復帰の問題内訳
表S2-10-2	把握区分別にみた生活上の問題内訳		図S2-10-2	把握区分別にみた治療・生活・社会復帰の問題内訳	図S2-10-2	把握区分別にみた治療・生活・社会復帰の問題内訳
表S2-10-3	把握区分別にみた社会復帰の問題内訳		図S2-10-3	把握区分別にみた訪問先	図S2-10-2	把握区分別にみた相談種別
表S2-11	把握区分別にみた担当者		図S2-11-1	把握区分別にみた相談種別	図S2-11-2	把握区分別にみた担当者
相談者別にみた地域住民ニーズ						
表S3-1	相談者別にみた性差		図S3-1-1	折れ線グラフ	図S3-1-2	棒グラフ
表S3-2	相談者別にみた年齢分布		図S3-2-1	相談者別にみた性差	図S3-2-2	相談者別にみた年齢分布
表S3-3	相談者別にみた地域保健事業		図S3-3-1	相談者別にみた年齢分布	図S3-3-2	相談者別にみた地域保健事業
表S3-4	相談者別にみた診断名		図S3-4-1	相談者別にみた地域保健事業	図S3-4-2	相談者別にみた診断名
表S3-5	相談者別にみた状態像		図S3-5-1	相談者別にみた診断名	図S3-5-2	相談者別にみた状態像
表S3-6	相談者別にみた援助方法		図S3-6-1	相談者別にみた状態像	図S3-6-2	相談者別にみた援助方法
表S3-7	相談者別にみた訪問先		図S3-7-1	相談者別にみた援助方法	図S3-7-2	相談者別にみた訪問先
表S3-8	相談者別にみた相談種別		図S3-8-1	相談者別にみた訪問先	図S3-8-2	相談者別にみた相談種別
表S3-9-1	相談者別にみた治療上の問題内訳		図S3-9-1	相談者別にみた相談種別	図S3-9-2	相談者別にみた治療・生活・社会復帰の問題内訳
表S3-9-2	相談者別にみた生活上の問題内訳		図S3-9-2	相談者別にみた治療・生活・社会復帰の問題内訳	図S3-9-2	相談者別にみた治療・生活・社会復帰の問題内訳
表S3-9-3	相談者別にみた社会復帰の問題内訳		図S3-9-3	相談者別にみた訪問先	図S3-9-2	相談者別にみた相談種別
表S3-10	相談者別にみた担当者		図S3-10-1	相談者別にみた相談種別	図S3-10-2	相談者別にみた担当者
性別にみた地域住民ニーズ						
表S4-1	性別にみた年齢分布		図S4-1-1	折れ線グラフ	図S4-1-2	棒グラフ
表S4-2	性別にみた地域保健事業		図S4-2-1	性別にみた年齢分布	図S4-2-2	性別にみた地域保健事業
表S4-3	性別にみた診断名		図S4-3-1	性別にみた地域保健事業	図S4-3-2	性別にみた診断名

表S4-4	性別にみた状態像			性別にみた状態像	図S4-4-2	性別にみた状態像
表S4-5	性別にみた相談者			性別にみた相談者	図S4-5-2	性別にみた相談者
表S4-6	性別にみた援助方法			性別にみた援助方法	図S4-6-2	性別にみた援助方法
表S4-7	性別にみた訪問先			性別にみた訪問先	図S4-7-2	性別にみた訪問先
表S4-8	性別にみた相談種別			性別にみた相談種別	図S4-8-2	性別にみた相談種別
表S4-9-1	性別にみた治療上の問題内訳			性別にみた治療・生活・社会復帰上の問題内訳	図S4-9-2	性別にみた治療・生活・社会復帰上の問題内訳
表S4-9-2	性別にみた生活上の問題内訳					
表S4-9-3	性別にみた社会復帰の問題内訳					
表S4-10	性別にみた担当者			性別にみた担当者	図S4-10-2	性別にみた担当者
ライフステージ別(年齢区分別)にみた地域住民ニーズ						
表S5-1	年齢区分別にみた性差			年齢区分別にみた性差	図S5-1-2	年齢区分別にみた性差
表S5-2	年齢区分別にみた地域保健事業			年齢区分別にみた地域保健事業	図S5-2-2	年齢区分別にみた地域保健事業
表S5-3	年齢区分別にみた診断名			年齢区分別にみた診断名	図S5-3-2	年齢区分別にみた診断名
表S5-4	年齢区分別にみた状態像			年齢区分別にみた状態像	図S5-4-2	年齢区分別にみた状態像
表S5-5	年齢区分別にみた相談者			年齢区分別にみた相談者	図S5-5-2	年齢区分別にみた相談者
表S5-6	年齢区分別にみた援助方法			年齢区分別にみた援助方法	図S5-6-2	年齢区分別にみた援助方法
表S5-7	年齢区分別にみた訪問先			年齢区分別にみた訪問先	図S5-7-2	年齢区分別にみた訪問先
表S5-8	年齢区分別にみた相談種別			年齢区分別にみた相談種別	図S5-8-2	年齢区分別にみた相談種別
表S5-9	年齢区分別にみた治療上の問題内訳			年齢区分別にみた治療・生活・社会復帰上の問題	図S5-9-2	年齢区分別にみた治療・生活・社会復帰上の問題
表S5-10	年齢区分別にみた生活上の問題内訳					
表S5-11	年齢区分別にみた社会復帰の問題内訳					
表S5-12	年齢区分別にみた担当者			年齢区分別にみた担当者	図S5-10-2	年齢区分別にみた担当者
診断名別(ICD分類別)にみた地域住民ニーズ						
表S6-1	診断名別にみた性差			診断名別にみた性差	図S6-1-2	診断名別にみた性差
表S6-2	診断名別にみた年齢分布			診断名別にみた年齢分布	図S6-2-2	診断名別にみた年齢分布
表S6-3	診断名別にみた地域保健事業			診断名別にみた地域保健事業	図S6-3-2	診断名別にみた地域保健事業
表S6-4	診断名別にみた状態像			診断名別にみた状態像	図S6-4-2	診断名別にみた状態像
表S6-5	診断名別にみた相談者			診断名別にみた相談者	図S6-5-2	診断名別にみた相談者
表S6-6	診断名別にみた援助方法			診断名別にみた援助方法	図S6-6-2	診断名別にみた援助方法
表S6-7	診断名別にみた訪問先			診断名別にみた訪問先	図S6-7-2	診断名別にみた訪問先
表S6-8	診断名別にみた相談種別			診断名別にみた相談種別	図S6-8-2	診断名別にみた相談種別
表S6-9-1	診断名別にみた治療上の問題内訳			診断名別にみた治療・生活・社会復帰上の問題	図S6-9-2	診断名別にみた治療・生活・社会復帰上の問題
表S6-9-2	診断名別にみた生活上の問題内訳					
表S6-9-3	診断名別にみた社会復帰の問題内訳					
表S6-10	診断名別にみた担当者			診断名別にみた担当者	図S6-10-2	診断名別にみた担当者
地域保健事業報告分類別にみた地域住民ニーズ						
表S7-1	地域保健事業報告分類別にみた性差			地域保健事業報告分類別にみた性差	図S7-1-2	地域保健事業報告分類別にみた性差
表S7-2	地域保健事業報告分類別にみた年齢分布			地域保健事業報告分類別にみた年齢分布	図S7-2-2	地域保健事業報告分類別にみた年齢分布
表S7-3	地域保健事業報告分類別にみた診断名			地域保健事業報告分類別にみた診断名	図S7-3-2	地域保健事業報告分類別にみた診断名
表S7-4	地域保健事業報告分類別にみた状態像			地域保健事業報告分類別にみた状態像	図S7-4-2	地域保健事業報告分類別にみた状態像
表S7-5	地域保健事業報告分類別にみた相談者			地域保健事業報告分類別にみた相談者	図S7-5-2	地域保健事業報告分類別にみた相談者
表S7-6	地域保健事業報告分類別にみた援助方法			地域保健事業報告分類別にみた援助方法	図S7-6-2	地域保健事業報告分類別にみた援助方法
表S7-7	地域保健事業報告分類別にみた訪問先			地域保健事業報告分類別にみた訪問先	図S7-7-2	地域保健事業報告分類別にみた訪問先
表S7-8	地域保健事業報告分類別にみた相談種別			地域保健事業報告分類別にみた相談種別	図S7-8-2	地域保健事業報告分類別にみた相談種別
表S7-9-1	地域保健事業報告分類別にみた治療上の問題内訳			地域保健事業報告分類別にみた治療・生活・社会復帰上の問題	図S7-9-2	地域保健事業報告分類別にみた治療・生活・社会復帰上の問題
表S7-9-2	地域保健事業報告分類別にみた生活上の問題内訳					
表S7-9-3	地域保健事業報告分類別にみた社会復帰の問題内訳					
表S7-10	地域保健事業報告分類別にみた担当者			地域保健事業報告分類別にみた担当者	図S7-10-2	地域保健事業報告分類別にみた担当者

新たな地域住民ニーズについての検討		折れ線グラフ		棒グラフ	
表S8-1	状態像別にみた性差	図S8-1-1	状態像別にみた性差	図S8-1-2	状態像別にみた性差
表S8-2	状態像別にみた年齢分布	図S8-2-1	状態像別にみた年齢分布	図S8-2-2	状態像別にみた年齢分布
表S8-3	状態像別にみた地域保健事業	図S8-3-1	状態像別にみた地域保健事業	図S8-3-2	状態像別にみた地域保健事業
表S8-4	状態像別にみた診断名	図S8-4-1	状態像別にみた診断名	図S8-4-2	状態像別にみた診断名
表S8-5	状態像別にみた相談者	図S8-5-1	状態像別にみた相談者	図S8-5-2	状態像別にみた相談者
表S8-6	状態像別にみた援助方法	図S8-6-1	状態像別にみた援助方法	図S8-6-2	状態像別にみた援助方法
表S8-7	状態像別にみた訪問先	図S8-7-1	状態像別にみた訪問先	図S8-7-2	状態像別にみた訪問先
表S8-8	状態像別にみた相談種別	図S8-8-1	状態像別にみた相談種別	図S8-8-2	状態像別にみた相談種別
表S8-9-1	状態像別にみた治療上の問題内訳	図S8-9-1	状態像別にみた治療・生活・社会復帰上の問題	図S8-9-2	状態像別にみた治療・生活・社会復帰上の問題
表S8-9-2	状態像別にみた生活上の問題内訳				
表S8-9-3	状態像別にみた社会復帰の問題内訳				
表S8-10	状態像別にみた担当者	図S8-10-1	状態像別にみた担当者	図S8-10-2	状態像別にみた担当者
相談種別にみた地域住民ニーズ					
表S9-1	相談種別にみた性差	図S9-1-1	相談種別にみた性差	図S9-1-2	相談種別にみた性差
表S9-2	相談種別にみた年齢分布	図S9-2-1	相談種別にみた年齢分布	図S9-2-2	相談種別にみた年齢分布
表S9-3	相談種別にみた地域保健事業	図S9-3-1	相談種別にみた地域保健事業	図S9-3-2	相談種別にみた地域保健事業
表S9-4	相談種別にみた診断名	図S9-4-1	相談種別にみた診断名	図S9-4-2	相談種別にみた診断名
表S9-5	相談種別にみた状態像	図S9-5-1	相談種別にみた状態像	図S9-5-2	相談種別にみた状態像
表S9-6	相談種別にみた相談者	図S9-6-1	相談種別にみた相談者	図S9-6-2	相談種別にみた相談者
表S9-7	相談種別にみた援助方法	図S9-7-1	相談種別にみた援助方法	図S9-7-2	相談種別にみた援助方法
表S9-8	相談種別にみた訪問先	図S9-8-1	相談種別にみた訪問先	図S9-8-2	相談種別にみた訪問先
表S9-9-1	相談種別にみた治療上の問題内訳	図S9-9-1	相談種別にみた治療・生活・社会復帰上の問題	図S9-9-2	相談種別にみた治療・生活・社会復帰上の問題
表S9-9-2	相談種別にみた生活上の問題内訳				
表S9-9-3	相談種別にみた社会復帰の問題内訳				
表S9-10	相談種別にみた担当者	図S9-10-1	相談種別にみた担当者	図S9-10-2	相談種別にみた担当者
援助方法別にみた地域住民ニーズ					
表S10-1	援助方法別にみた性差	図S10-1-1	援助方法別にみた性差	図S10-1-2	援助方法別にみた性差
表S10-2	援助方法別にみた年齢分布	図S10-2-1	援助方法別にみた年齢分布	図S10-2-2	援助方法別にみた年齢分布
表S10-3	援助方法別にみた地域保健事業	図S10-3-1	援助方法別にみた地域保健事業	図S10-3-2	援助方法別にみた地域保健事業
表S10-4	援助方法別にみた診断名	図S10-4-1	援助方法別にみた診断名	図S10-4-2	援助方法別にみた診断名
表S10-5	援助方法別にみた状態像	図S10-5-1	援助方法別にみた状態像	図S10-5-2	援助方法別にみた状態像
表S10-6	援助方法別にみた相談者	図S10-6-1	援助方法別にみた相談者	図S10-6-2	援助方法別にみた相談者
表S10-7	援助方法別にみた相談種別	図S10-7-1	援助方法別にみた相談種別	図S10-7-2	援助方法別にみた相談種別
表S10-8-1	援助方法別にみた治療上の問題内訳	図S10-8-1	援助方法別にみた治療・生活・社会復帰上の問題	図S10-8-2	援助方法別にみた治療・生活・社会復帰上の問題
表S10-8-2	援助方法別にみた生活上の問題内訳				
表S10-8-3	援助方法別にみた社会復帰の問題内訳				
表S10-9	援助方法別にみた担当者	図S10-9-1	援助方法別にみた担当者	図S10-9-2	援助方法別にみた担当者
担当者別にみた地域住民ニーズ					
表S11-1	担当者別にみた性差	図S11-1-1	担当者別にみた性差	図S11-1-2	担当者別にみた性差
表S11-2	担当者別にみた年齢分布	図S11-2-1	担当者別にみた年齢分布	図S11-2-2	担当者別にみた年齢分布
表S11-3	担当者別にみた地域保健事業	図S11-3-1	担当者別にみた地域保健事業	図S11-3-2	担当者別にみた地域保健事業
表S11-4	担当者別にみた診断名	図S11-4-1	担当者別にみた診断名	図S11-4-2	担当者別にみた診断名
表S11-5	担当者別にみた状態像	図S11-5-1	担当者別にみた状態像	図S11-5-2	担当者別にみた状態像
表S11-6	担当者別にみた相談者	図S11-6-1	担当者別にみた相談者	図S11-6-2	担当者別にみた相談者
表S11-7	担当者別にみた援助方法	図S11-7-1	担当者別にみた援助方法	図S11-7-2	担当者別にみた援助方法
表S11-8	担当者別にみた訪問先	図S11-8-1	担当者別にみた訪問先	図S11-8-2	担当者別にみた訪問先
表S11-9	担当者別にみた相談種別	図S11-9-1	担当者別にみた相談種別	図S11-9-2	担当者別にみた相談種別

把握区分別にみた地域住民ニーズ

	合計	性別		
		男性	女性	不明
把握新	1,563	739	814	10
	100.0	47.3	52.1	0.6
年度新	622	321	300	1
	100.0	51.6	49.2	0.2
再	8,408	4,182	4,189	37
	100.0	49.7	49.8	0.4
不明	12	3	3	6
	100.0	25.0	25.0	50.0
合計	10,605	5,245	5,306	54
	100.0	49.5	50.0	0.5

	合計	年齢				不明
		24歳以下	25~44歳	45~64歳	65歳以上	
把握新	1,563	207	568	307	233	248
	100.0	13.2	36.3	19.6	14.9	15.9
年度新	622	42	268	191	81	40
	100.0	6.8	43.1	30.7	13.0	6.4
再	8,408	570	4,141	2,673	846	178
	100.0	6.8	49.3	31.8	10.1	2.1
不明	12	0	1	2	0	9
	100.0	0.0	8.3	16.7	0.0	75.0
合計	10,605	819	4,978	3,173	1,160	475
	100.0	7.7	46.9	29.9	10.9	4.5

	合計	地域保健事業報告							不明
		老人保健	社会復帰	アルコール	薬物	思春期	心の健康づくり	その他	
把握新	1,563	190	191	103	16	40	245	778	0
	100.0	12.2	12.2	6.6	1.0	2.6	15.7	49.8	0.0
年度新	622	57	134	29	13	8	35	345	1
	100.0	9.2	21.5	4.7	2.1	1.3	5.6	55.5	0.2
再	8,408	553	2,259	235	59	46	569	4,680	7
	100.0	6.6	26.9	2.8	0.7	0.5	6.8	55.7	0.1
不明	12	1	0	1	0	0	0	1	9
	100.0	8.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	75.0
合計	10,605	801	2,584	368	88	94	849	5,804	17
	100.0	7.6	24.4	3.5	0.8	0.9	8.0	54.7	0.2

	合計	診断名	診断結果									
			器質性精神障害	気分性精神障害	統合失調症	感情障害	神経症性障害	人格障害	精神遅滞	その他	診断保留	異常なし
把握新	1,563	131	86	315	195	64	32	14	98	558	17	53
	100.0	8.4	5.5	20.2	12.5	4.1	2.0	0.9	6.3	35.7	1.1	3.4
年度新	622	56	41	293	55	32	21	10	22	85	1	6
	100.0	9.0	6.6	47.1	8.8	5.1	3.4	1.6	3.5	13.7	0.2	1.0
再	8,408	650	356	4,844	706	344	406	151	195	683	17	56
	100.0	7.7	4.2	57.6	8.4	4.1	4.8	1.8	2.3	8.1	0.2	0.7
不明	12	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0	8
	100.0	0.0	8.3	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	66.7
合計	10,605	837	484	5,453	957	440	459	175	316	1,326	35	123
	100.0	7.9	4.6	51.4	9.0	4.1	4.3	1.7	3.0	12.5	0.3	1.2

	合計	状態像									
		ひきこもり	人格障害	子ども虐待	食生活上の問題	家庭内暴力	DV	老人虐待	うつ状態	その他	不明
把握新	1,563	166	52	20	23	58	24	7	175	359	693
	100.0	10.6	3.3	1.3	1.5	3.7	1.5	0.4	11.2	23.0	44.3
年度新	622	48	38	2	11	25	5	5	35	148	318
	100.0	7.7	6.1	0.3	1.8	4.0	0.8	0.8	5.6	23.8	51.1
再	8,408	491	596	97	118	149	36	34	446	1,640	4,887
	100.0	5.8	7.1	1.2	1.4	1.8	0.4	0.4	5.3	19.5	58.1
不明	12	1	0	0	0	0	0	0	1	1	10
	100.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	83.3
合計	10,605	706	686	119	152	232	65	46	656	2,148	5,908
	100.0	6.7	6.5	1.1	1.4	2.2	0.6	0.4	6.2	20.3	55.7

	合計	被面接者					不明
		本人	家族	医療機関	関係機関職員	その他	
把握新	1,563	562	789	107	285	65	5
	100.0	36.0	50.5	6.8	18.2	4.2	0.3
年度新	622	284	250	52	153	37	2
	100.0	45.7	40.2	8.4	24.6	5.9	0.3
再	8,408	4,655	2,096	873	2,114	278	23
	100.0	55.4	24.9	10.4	25.1	3.3	0.3
不明	12	6	4	0	5	0	1
	100.0	50.0	33.3	0.0	41.7	0.0	8.3
合計	10,605	5,507	3,139	1,032	2,557	380	31
	100.0	51.9	29.6	9.7	24.1	3.6	0.3

	合計	援助方法				
		面接	電話	文書	訪問	不明
把握新	1,563	595	851	4	101	12
	100.0	38.1	54.4	0.3	6.5	0.8
年度新	622	258	255	3	98	8
	100.0	41.5	41.0	0.5	15.8	1.3
再	8,408	2,314	4,791	84	1,145	74
	100.0	27.5	57.0	1.0	13.6	0.9
不明	12	4	6	0	2	0
	100.0	33.3	50.0	0.0	16.7	0.0
合計	10,605	3,171	5,903	91	1,346	94
	100.0	29.9	55.7	0.9	12.7	0.9

	合計	訪問先					不明
		家庭	社会復帰施設・作業所	居住生活支援事業所	医療機関	その他	
把握新	101	61	7	0	17	21	1
	100.0	60.4	6.9	0.0	16.8	20.8	1.0
年度新	98	60	8	1	12	21	3
	100.0	61.2	8.2	1.0	12.2	21.4	3.1
再	1,145	670	176	14	172	137	18
	100.0	58.5	15.4	1.2	15.0	12.0	1.6
不明	2	1	1	0	0	1	0
	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
合計	1,346	792	192	15	201	180	22
	100.0	58.9	14.3	1.1	14.9	13.4	1.6

	合計	相談種別					不明
		治療上の問題	生活上の問題	社会復帰問題	心の健康問題	その他	
把握新	1,563	656	476	275	73	79	4
	100.0	42.0	30.5	17.6	4.7	5.1	0.3
年度新	622	150	241	158	17	56	0
	100.0	24.1	38.7	25.4	2.7	9.0	0.0
再	8,408	1,781	3,397	2,219	438	568	5
	100.0	21.2	40.4	26.4	5.2	6.8	0.1
不明	12	4	4	3	0	0	1
	100.0	33.3	33.3	25.0	0.0	0.0	8.3
合計	10,605	2,591	4,118	2,655	528	703	10
	100.0	24.4	38.8	25.0	5.0	6.6	0.1

	合計	治療上の問題		
		診断に関する相談	医療利用上の問題	不明
把握新	656	269	531	11
	100.0	41.0	80.9	1.7
年度新	150	26	137	5
	100.0	17.3	91.3	3.3
再	1,781	427	1,579	51
	100.0	24.0	88.7	2.9
不明	4	1	3	0
	100.0	25.0	75.0	0.0
合計	2,591	723	2,250	67
	100.0	27.9	86.8	2.6

	合計	生活上の問題						
		生活上の問題	家族等の対応	経済的な問題	住居の問題	就労・就学の問題	社会的問題	不明
把握新	476	260	219	80	31	34	69	21
	100.0	54.6	46.0	16.8	6.5	7.1	14.5	4.4
年度新	241	131	87	42	14	20	32	13
	100.0	54.4	36.1	17.4	5.8	8.3	13.3	5.4
再	3,397	2,422	951	542	313	207	313	84
	100.0	71.3	28.0	16.0	9.2	6.1	9.2	2.5
不明	4	3	1	1	0	0	0	0
	100.0	75.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	4,118	2,816	1,258	665	358	261	414	118
	100.0	68.4	30.5	16.1	8.7	6.3	10.1	2.9

合計	社会復帰の問題								
	社会復帰・施設	ホームヘルプ	ショートステイ	グループホーム	社会適応訓練	通院医療費	手帳	不明	
把握新	275	113	35	2	5	12	81	95	5
100.0	41.1	12.7	0.7	1.8	4.4	29.5	34.5	1.8	
年度新	158	70	11	2	3	8	36	51	3
100.0	44.3	7.0	1.3	1.9	5.1	22.8	32.3	1.9	
再	2,219	1,197	470	92	110	79	152	311	47
100.0	53.9	21.2	4.1	5.0	3.6	6.8	14.0	2.1	
不明	3	1	1	0	0	0	1	1	0
100.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	
合計	2,655	1,381	517	96	118	99	270	458	55
100.0	52.0	19.5	3.6	4.4	3.7	10.2	17.3	2.1	

合計	担当者					
	医師・嘱託医	福祉職	保健師	事務職	その他	不明
把握新	1,563	55	1,085	460	44	37
100.0	3.5	69.4	29.4	2.8	2.4	1.7
年度新	622	22	475	149	16	20
100.0	3.5	76.4	24.0	2.6	3.2	1.3
再	8,408	202	6,392	2,061	85	271
100.0	2.4	76.0	24.5	1.0	3.2	1.4
不明	12	0	5	5	3	0
100.0	0.0	41.7	41.7	25.0	0.0	0.0
合計	10,605	279	7,957	2,675	148	328
100.0	2.6	75.0	25.2	1.4	3.1	1.4

相談者別にみた地域住民ニーズ

合計	性別			
	男性	女性	不明	
本人	846	373	470	3
100.0	44.1	55.6	0.4	
家族	1,039	543	489	7
100.0	52.3	47.1	0.7	
医療機関	159	77	81	1
100.0	48.4	50.9	0.6	
関係機関職員	438	222	211	5
100.0	50.7	48.2	1.1	
その他	102	44	58	0
100.0	43.1	56.9	0.0	
不明	7	2	5	0
100.0	28.6	71.4	0.0	
合計	2,185	1,060	1,114	11
100.0	48.5	51.0	0.5	

合計	年齢				
	24歳以下	25~44歳	45~64歳	65歳以上	不明
本人	846	68	364	212	89
100.0	8.0	43.0	25.1	10.5	13.4
家族	1,039	167	388	191	174
100.0	16.1	37.3	18.4	16.7	11.5
医療機関	159	21	46	44	32
100.0	13.2	28.9	27.7	20.1	10.1
関係機関職員	438	41	154	131	75
100.0	9.4	35.2	29.9	17.1	8.4
その他	102	7	40	24	19
100.0	6.9	39.2	23.5	18.6	11.8
不明	7	1	5	1	0
100.0	14.3	71.4	14.3	0.0	0.0
合計	2,185	249	836	498	314
100.0	11.4	38.3	22.8	14.4	13.2

合計	地域保健事業報告						
	老人保健	社会復帰	アルコール	薬物	思春期	心の健康づくり	その他
本人	846	71	181	37	8	5	120
100.0	8.4	21.4	4.4	0.9	0.6	14.2	50.1
家族	1,039	141	126	72	20	33	120
100.0	13.6	12.1	6.9	1.9	3.2	11.5	50.7
医療機関	159	27	22	5	2	2	3
100.0	17.0	13.8	3.1	1.3	1.3	1.9	61.6
関係機関職員	438	63	66	33	9	9	39
100.0	14.4	15.1	7.5	2.1	2.1	8.9	50.0
その他	102	7	10	5	3	1	14
100.0	6.9	9.8	4.9	2.9	1.0	13.7	60.8
不明	7	0	1	0	0	3	2
100.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	42.9	28.6
合計	2,185	247	325	132	29	48	280
100.0	11.3	14.9	6.0	1.3	2.2	12.8	51.4

合計	診断名										
	器質性精神障害	薬剤性精神障害	総合失調症	感情障害	神経症性障害	人格障害	精神遅滞	その他	診断保留	異常なし	不明
本人	846	72	42	263	118	45	22	10	38	200	12
100.0	8.5	5.0	31.1	13.9	5.3	2.6	1.2	4.5	23.6	1.4	
家族	1,039	112	69	268	109	40	24	8	60	320	6
100.0	10.8	6.6	25.8	10.5	3.8	2.3	0.8	5.8	30.8	0.6	
医療機関	159	26	5	63	18	5	7	2	5	27	0
100.0	16.4	3.1	39.6	11.3	3.1	4.4	1.3	3.1	17.0	0.0	
関係機関職員	438	42	31	138	60	18	11	11	17	101	0
100.0	9.6	7.1	31.5	13.7	4.1	2.5	2.5	3.9	23.1	0.0	
その他	102	2	6	24	6	5	6	0	9	39	1
100.0	2.0	5.9	23.5	5.9	4.9	5.9	0.0	8.8	38.2	1.0	
不明	7	0	0	1	0	2	1	0	1	0	
100.0	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	
合計	2,185	187	127	608	250	96	53	24	120	643	18
100.0	8.6	5.8	27.8	11.4	4.4	2.4	1.1	5.5	29.4	0.8	

合計	状態像									
	ひきこもり	人格障害	子ども虐待	食生活上の問題	家庭内暴力	DV	老人虐待	うつ状態	その他	不明
本人	846	49	30	3	18	20	8	5	103	208
100.0	5.8	3.5	0.4	2.1	2.4	0.9	0.6	12.2	24.6	
家族	1,039	152	36	5	14	62	15	4	88	234
100.0	14.6	3.5	0.5	1.3	6.0	1.4	0.4	8.5	22.5	
医療機関	159	2	6	0	1	11	1	1	16	42
100.0	1.3	3.8	0.0	0.6	6.9	0.6	0.6	10.1	26.4	
関係機関職員	438	29	25	13	6	22	7	8	37	114
100.0	6.6	5.7	3.0	1.4	5.0	1.6	1.8	8.4	26.0	
その他	102	6	7	1	3	1	0	7	38	40
100.0	5.9	6.9	1.0	2.9	1.0	0.0	0.0	6.9	37.3	
不明	7	2	0	0	0	0	0	0	1	4
100.0	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	
合計	2,185	214	90	22	34	83	29	12	210	507
100.0	9.8	4.1	1.0	1.6	3.8	1.3	0.5	9.6	23.2	

合計	援助方法				
	面接	電話	文書	訪問	不明
本人	846	361	314	0	166
100.0	42.7	37.1	0.0	19.6	6.6
家族	1,039	436	479	4	110
100.0	42.0	46.1	0.4	10.6	1.0
医療機関	159	21	107	2	25
100.0	13.2	67.3	1.3	15.7	2.5
関係機関職員	438	153	206	2	69
100.0	34.9	47.0	0.5	15.8	1.8
その他	102	24	60	0	14
100.0	23.5	58.8	0.0	13.7	3.9
不明	7	1	3	0	1
100.0	14.3	42.9	0.0	14.3	28.6
合計	2,185	853	1,106	7	199
100.0	39.0	50.6	0.3	9.1	0.9

合計	訪問先					
	家庭	社会復帰施設・作業所	居住生活支援事業所	医療機関	その他	不明
本人	166	107	15	0	27	29
100.0	64.5	9.0	0.0	16.3	17.5	0.6
家族	110	73	3	0	21	23
100.0	66.4	2.7	0.0	19.1	20.9	0.9
医療機関	25	2	3	1	15	11
100.0	8.0	12.0	4.0	60.0	44.0	4.0
関係機関職員	69	21	8	1	16	30
100.0	30.4	11.6	1.4	23.2	43.5	2.9
その他	14	4	3	0	7	7
100.0	28.6	21.4	0.0	14.3	50.0	0.0
不明	1	1	0	0	0	0
100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	199	121	15	1	29	42
100.0	60.8	7.5	0.5	14.6	21.1	2.0

	合計	相談種別					
		治療上の問題	生活上の問題	社会復帰問題	心の健康問題	その他	不明
本人	846	247	251	251	52	43	2
100.0	100.0	29.2	29.7	29.7	6.1	5.1	0.2
家族	1,039	444	355	152	28	60	0
100.0	100.0	42.7	34.2	14.6	2.7	5.8	0.0
医療機関	159	79	32	42	0	6	0
100.0	100.0	49.7	20.1	26.4	0.0	3.8	0.0
関係機関職員	438	176	154	67	9	32	0
100.0	100.0	40.2	35.2	15.3	2.1	7.3	0.0
その他	102	37	40	7	2	16	0
100.0	100.0	36.3	39.2	6.9	2.0	15.7	0.0
不明	7	2	2	0	1	0	2
100.0	100.0	28.6	28.6	0.0	14.3	0.0	28.6
合計	2,185	806	717	433	90	135	4
100.0	100.0	36.9	32.8	19.8	4.1	6.2	0.2

	合計	治療上の問題		
		診断に関する相談	医療利用上の問題	不明
本人	247	91	208	4
100.0	100.0	36.8	84.2	1.6
家族	444	176	373	6
100.0	100.0	39.6	84.0	1.4
医療機関	79	20	73	1
100.0	100.0	25.3	92.4	1.3
関係機関職員	176	79	136	5
100.0	100.0	44.9	77.3	2.8
その他	37	15	31	0
100.0	100.0	40.5	83.8	0.0
不明	2	0	2	0
100.0	100.0	0.0	100.0	0.0
合計	806	295	668	16
100.0	100.0	36.6	82.9	2.0

	合計	生活上の問題						
		生活上の問題	家族等の対応	経済的な問題	住居の問題	就労・就学の問題	社会的問題	不明
本人	251	167	46	49	21	25	20	20
100.0	100.0	66.5	18.3	19.5	8.4	10.0	8.0	8.0
家族	355	175	243	58	17	26	46	8
100.0	100.0	49.3	68.5	16.3	4.8	7.3	13.0	2.3
医療機関	32	13	13	6	1	2	6	2
100.0	100.0	40.6	40.6	18.8	3.1	6.3	18.8	6.3
関係機関職員	154	88	46	25	13	12	35	6
100.0	100.0	57.1	29.9	16.2	8.4	7.8	22.7	3.9
その他	40	19	10	3	3	3	18	2
100.0	100.0	47.5	25.0	7.5	7.5	7.5	45.0	5.0
不明	2	1	0	0	0	0	0	1
100.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
合計	717	391	306	122	45	54	101	34
100.0	100.0	54.5	42.7	17.0	6.3	7.5	14.1	4.7

	合計	社会復帰の問題							
		社会復帰・施設	ホームヘルプ	ショートステイ	グループホーム	社会適応訓練	通院医療費	手帳	不明
本人	251	97	26	3	5	12	57	97	5
100.0	100.0	38.6	10.4	1.2	2.0	4.8	22.7	38.6	2.0
家族	152	81	15	0	1	10	41	53	2
100.0	100.0	53.3	9.9	0.0	0.7	6.6	27.0	34.9	1.3
医療機関	42	12	6	1	1	0	24	9	0
100.0	100.0	28.6	14.3	2.4	2.4	0.0	57.1	21.4	0.0
関係機関職員	67	36	14	0	2	1	14	9	1
100.0	100.0	53.7	20.9	0.0	3.0	1.5	20.9	13.4	1.5
その他	7	3	2	0	1	1	1	0	0
100.0	100.0	42.9	28.6	0.0	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	433	183	46	4	8	20	117	146	8
100.0	100.0	42.3	10.6	0.9	1.8	4.6	27.0	33.7	1.8

	合計	担当者						不明
		医師・嘱託医	福祉職	保健師	事務職	その他		
本人	846	44	579	259	24	29	16	
100.0	100.0	5.2	68.4	30.6	2.8	3.4	1.9	
家族	1,039	53	747	289	26	22	12	
100.0	100.0	5.1	71.9	27.8	2.5	2.1	1.2	
医療機関	159	5	135	26	6	5	0	
100.0	100.0	3.1	84.9	16.4	3.8	3.1	0.0	
関係機関職員	438	13	340	112	10	20	7	
100.0	100.0	3.0	77.6	25.6	2.3	4.6	1.6	
その他	102	3	78	28	3	4	0	
100.0	100.0	2.9	76.5	27.5	2.9	3.9	0.0	
不明	7	0	1	4	0	0	2	
100.0	100.0	0.0	14.3	57.1	0.0	0.0	28.6	
合計	2,185	77	1,560	609	60	57	35	
100.0	100.0	3.5	71.4	27.9	2.7	2.6	1.6	

性別にみた地域住民ニーズ

	合計	年齢				
		24歳以下	25~44歳	45~64歳	65歳以上	不明
男性	1,060	118	409	255	141	137
100.0	100.0	11.1	38.6	24.1	13.3	12.9
女性	1,114	130	426	242	172	144
100.0	100.0	11.7	38.2	21.7	15.4	12.9
不明	11	1	1	1	1	7
100.0	100.0	9.1	9.1	9.1	9.1	63.6
合計	2,185	249	836	498	314	288
100.0	100.0	11.4	38.3	22.8	14.4	13.2

	合計	地域保健事業報告							
		老人保健	社会復帰	アルコール	薬物	思春期	心の健康づくり	その他	不明
男性	1,060	106	162	105	17	19	120	531	0
100.0	100.0	10.0	15.3	9.9	1.6	1.8	11.3	50.1	0.0
女性	1,114	141	163	25	12	27	160	585	1
100.0	100.0	12.7	14.6	2.2	1.1	2.4	14.4	52.5	0.1
不明	11	0	0	2	0	2	0	7	0
100.0	100.0	0.0	0.0	18.2	0.0	18.2	0.0	63.6	0.0
合計	2,185	247	325	132	29	48	280	1,123	1
100.0	100.0	11.3	14.9	6.0	1.3	2.2	12.8	51.4	0.0

	合計	診断名										
		器質性精神障害	薬物性精神障害	総合失調症	感情障害	神経症性障害	人格障害	精神遅滞	その他	診断保留	異常なし	不明
男性	1,060	93	101	308	101	39	20	16	47	303	5	27
100.0	100.0	8.8	9.5	29.1	9.5	3.7	1.9	1.5	4.4	28.6	0.5	2.5
女性	1,114	93	25	299	148	57	33	8	72	334	13	32
100.0	100.0	8.3	2.2	26.8	13.3	5.1	3.0	0.7	6.5	30.0	1.2	2.9
不明	11	1	1	1	1	0	0	0	1	6	0	0
100.0	100.0	9.1	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	54.5	0.0	0.0
合計	2,185	187	127	608	250	96	53	24	120	643	18	59
100.0	100.0	8.6	5.8	27.8	11.4	4.4	2.4	1.1	5.5	29.4	0.8	2.7

	合計	状態像									
		ひきこもり	人格障害	子ども虐待	食生活上の問題	家庭内暴力	DV	老人虐待	うつ状態	その他	不明
男性	1,060	137	28	2	8	61	14	7	91	236	488
100.0	100.0	12.9	2.6	0.2	0.8	5.8	1.3	0.7	8.6	22.3	46.0
女性	1,114	75	62	20	26	21	14	5	119	271	516
100.0	100.0	6.7	5.6	1.8	2.3	1.9	1.3	0.4	10.7	24.3	46.3
不明	11	2	0	0	0	1	1	0	0	0	7
100.0	100.0	18.2	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	63.6
合計	2,185	214	90	22	34	83	29	12	210	507	1,011
100.0	100.0	9.8	4.1	1.0	1.6	3.8	1.3	0.5	9.6	23.2	46.3

	合計	被面接者					
		本人	家族	医療機関	関係機関職員	その他	不明
男性	1,060	373	543	77	222	44	2
100.0	100.0	35.2	51.2	7.3	20.9	4.2	0.2
女性	1,114	470	489	81	211	58	5
100.0	100.0	42.2	43.9	7.3	18.9	5.2	0.4
不明	11	3	7	1	5	0	0
100.0	100.0	27.3	63.6	9.1	45.5	0.0	0.0
合計	2,185	846	1,039	159	438	102	7
100.0	100.0	38.7	47.6	7.3	20.0	4.7	0.3

	合計	援助方法				
		面接	電話	文書	訪問	不明
男性	1,060	444	510	1	97	8
100.0	100.0	41.9	48.1	0.1	9.2	0.8
女性	1,114	406	589	6	101	12
100.0	100.0	36.4	52.9	0.5	9.1	1.1
不明	11	3	7	0	1	0
100.0	100.0	27.3	63.6	0.0	9.1	0.0
合計	2,185	853	1,106	7	199	20
100.0	100.0	39.0	50.6	0.3	9.1	0.9